

企業名：小野薬品工業

レポート名：コーポレートレポート 2022

### 1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

表紙に書いてある“Be Passionate Challengers”という標語から、この会社は意欲的に挑戦心を持って業務に取り組む会社だということが推測できる。その次のページには企業理念として「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」と書かれ、めざす姿が「熱き挑戦者たちであれ」と明示されている。これらから、小野薬品工業は病気と苦痛を無くして人類が勝利することを目的に活動しているとわかる。

代表取締役社長の相良氏のトップメッセージでは、積極的な研究開発投資によりさらなる成長を目指していくと述べられている。投資金額の具体的な目標も示されており、ゴールを見据えて活動している会社だとわかる。まとめると、抽象的な目標と具体的な目標の両方を掲げて活動し、目指す将来の姿が伝わりやすい報告書である。

### 2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

「独創的で革新的な」というフレーズが度々用いられ、挑戦(=積極的投資)を続けて成長しているとあることから、保守的な経営に走らずに果敢に研究開発に取り組んでいると考えられる。これは上記のめざす姿と重なる部分があり、競争優位性をさらに強めるために活動出来ていると言える。

現在は抗悪性腫瘍剤が主力商品となっていて、これが小野薬品工業の具体的な強みである。他には、社外から女性の取締役を招聘したり積極的に人材をスカウトしたりと、オープンイノベーションを行うための土台作りが行われていることがあげられる。56 ページにもあるように、「各業界の境界線があいまいになっている現代社会では、幅広い知見を取り入れることが重要である。実際、小野薬品工業は「かねてよりオープンイノベーションに積極的であり、その取り組みの中から数々の革新的医薬品を生み出してき」たとある。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

研究開発投資を広げていくことが述べられており、オープンイノベーションもそれに伴ってより積極的に行われていくと予想される。大きな医薬品市場を持つ欧米を狙って展開することが強調されていて、それにより得た利益で投資を拡大すると推測できるため、競争優位性に持続性があると理解できる。

### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

達成できると思う。この会社が 2017 年に策定した 4 つの成長戦略のうちの 1 つに「産業

基盤の強化」とある。具体的には「グローバル化を牽引できる人材の育成」である。会社の成長のための目標に社員の成長を取り入れていることから、小野薬品工業は社員の成長に力を入れている会社だと推測できる。Ono innovation Platform と称した取り組みでイノベーションを起こすための人材育成も行っている。その上、「次世代経営育成研修」が年単位で行われ、会社の成長にも反映されるという良い連鎖が生まれている。

#### **5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか**

全体的に明るい雰囲気を読みやすく、企業理念や今後の目的などの投資家に必要な情報が載っていたと思う。また、サステナビリティに配慮していることが明記されることで、薬の持つマイナスイメージも払拭出来ていた。ただ一つ改善点を上げるならやや長いことである。必要な情報が十二分に掲載されているのは良いが、同じ内容が何度か載せられていたため、そこは省けるように感じた。